

発刊のことば

山入近隣会会長 中丸末雄

『鮭立磨崖仏』は私たち山入の遠い先祖が残して置いてくれた珍しい、しかも美しく貴い文化財です。

実は私たち山入の人々は、長い間「磨崖仏」という名前も、いわれも、勿論その文化財としての価値も知らず、昔からの一寸珍しい仏様だか、神様のお姿が岩に刻まれているくらいに思っていました。

ただ、「ほろしの神様」で、麻疹（はしか）や猩紅熱、また蕁麻疹（じんましん）などにかかると、豆腐を半丁持って平癒祈願をし、治るとまた半丁を持ってお礼参りをする事で知られていました。

それが最近になって、役場や教育委員会によって、その道の先生方の調査が行なわれた結果、金山町はおろか、広く日本中に対しても誇り得る磨崖仏であることを知らされ、驚きと共に非常に嬉しく思うようになりました。

私ども「山入近隣会」は、昭和四十八年、金山町における学校統合の施策によって、明治以来一〇〇年近く、地域和合のシンボルでもあった山入分校がなくなることになったのを機会に、山入川に沿って遠い先祖以来住みついた七つの部落（昭和四十四年水害で五部落となる）の地域特性、共通する生活の場、和合・親睦の住民意識がこわれては大へんだという心から、土の中から湧き出る清水のような自然のみんなの